

四万十町としての取り組み

平成30年4月に、9年間の見通しを持った家庭学習を考えるために、四万十町小小・小中連携教育推進協議会から『義務教育9年間の学習のてびき』を各家庭に配布しています。

さらに充実させたい取り組み

- 家庭学習の時間を生活習慣の中に位置づけ、家庭学習に取り組む時間を増やす。
- 授業での学びと家庭での復習、家庭での予習と授業を効果的に関連づける。
- 「めあて」から「ふりかえり」までの授業のスタンダードをもとに、子どもたちが自分の「めあて」をもって主体的に家庭学習に取り組めるようにする。



子どもたちのさらなる学力向上のために

【学校の取り組みの状況】

- 教職員がチームを組んで、組織的に学校目標の実現や課題解決を図る。(チーム学校の構築)
- 県の指定事業を受け、子どもたちの学力向上、心や体の健康についての研究を進める。
- ※学力向上推進対策事業(授業づくり講座)
- ※中学校組織力向上のための実践研究事業
- ※学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業
- ※小学校小規模・複式校における授業改善・特色ある教育課程推進事業
- ※外国語教育コア・エリア実践研究指定事業など
- 保護者や地域と連携・協働し、子どもたちを支え育む取り組みを推進する。

【家庭生活上で大切にしてほしいこと】

- 基本的生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)
- あいさつ・返事
- 家族・地域の一員としての役割(お手伝い・行事への参加など)
- 家族の会話(ほめる・認める・励ます)

9月 学校給食食材の放射能測定

	検査期間	セシウム134	セシウム137	ヨウ素131
窪川学校給食センター	9/3～10	不検出	不検出	不検出
大正学校給食センター	9/3～10	不検出	不検出	不検出
十和学校給食センター	9/3～10	不検出	不検出	不検出

実施日：平成30年9月26日
検査機関：株式会社 日本食品エコロジー研究所 食品分析センター

※不検出とは測定下限値未満(<1.0Bq/kg)であることを示しています。検査に使用する食材は、約1週間分の原材料(調味料を除く)です。一定量を混合試料にして検査します。

10月 学校給食食材の放射能測定

	検査期間	セシウム134	セシウム137	ヨウ素131
窪川学校給食センター	10/1～5	不検出	不検出	不検出
大正学校給食センター	10/1～5	不検出	不検出	不検出
十和学校給食センター	10/1～5	不検出	不検出	不検出

実施日：平成30年10月22日
検査機関：株式会社 日本食品エコロジー研究所 食品分析センター

※不検出とは測定下限値未満(<1.0Bq/kg)であることを示しています。検査に使用する食材は、約1週間分の原材料(調味料を除く)です。一定量を混合試料にして検査します。

【広告】

少し早いですが、平成31年正月用「門松」のご注文お受けします。
数に限りがありますので、12月3日(月)までにご予約をお願いします！



価格

ただし、予定数に達した時点で受付終了とさせていただきます。

大 **18,700円** (高さ150cm) 中 **16,500円** (高さ120cm)

◀写真の門松は、高さ120cmです。

ご注文・お問い合わせは

社会参加の輪をひろげ、地域社会に貢献する
(公社)四万十町シルバー人材センター
四万十町香月が丘4番20号(ふるさと未来館内)

☎29-6021

「学び」の質の向上を目指して

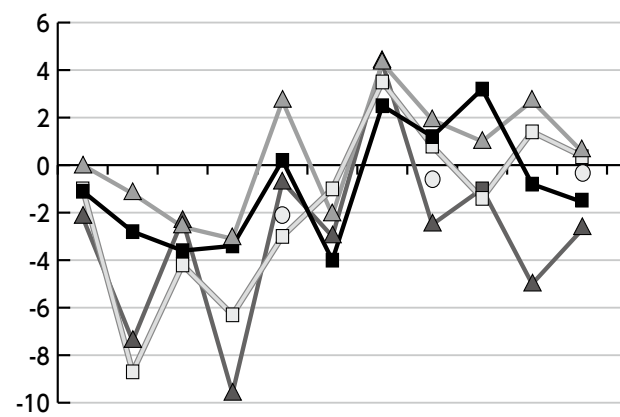
～平成30年度全国学力・学習状況調査結果から～

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握するため、小学校6年生と中学校3年生を対象として、全国一斉に実施されています。今年度は、4月17日に国語・算数(数学)・理科の3教科の学力と、生活習慣や学習状況などに関する調査が実施されました。(平成23年度は震災の影響で全国データなし)

四万十町では、「一人ひとりの『学び』を保障する」教育実践および教育環境の整備を目指して取り組みをすすめています。その検証の一つの指標として、全国学力・学習状況調査も活用してきました。

学力については、国語・算数・数学は「A問題」と「B問題」による構成となっています。「A問題」は主として知識に関する問題、「B問題」は主として活用に関する問題です。理科はA・Bの区別はありません。

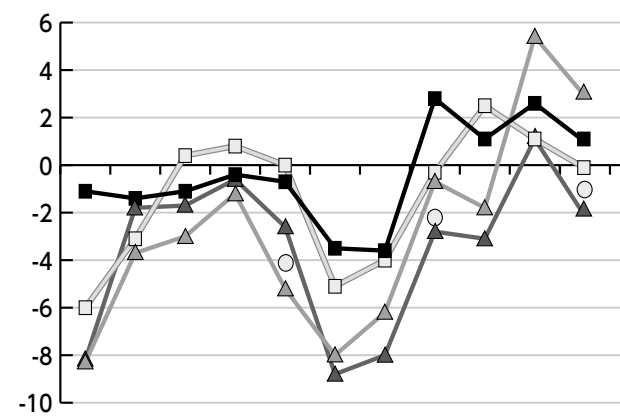
全国と四万十町の平均正答率の差(小学校)



	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
■国語A	-1.1	-2.8	-3.6	-3.4	0.2	-4	2.5	1.2	3.2	-0.8	-1.7
□国語B	-1	-8.7	-4.2	-6.3	-3	-1	3.5	0.8	-1.4	1.4	0.3
▲算数A	0	-1.2	-2.6	-3.1	-2.7	-2.1	4.3	1.9	1	2.7	0.5
▲算数B	-2.2	-7.4	-2.3	-9.6	-0.7	-3	4.3	-2.5	-1	-5	-2.5
○理科					-2.1			-0.6			-0.3

【小学校】すべての教科が全国平均に近い位置にあります。しかし、国語では「書くこと」の領域に、算数では、「グラフや表の情報を適切に読み取る」問題で課題が見られました。県平均や全国平均に比べて、無解答率が非常に低く、どの問題にもあきらめずに取り組む姿勢が見られました。

全国と四万十町の平均正答率の差(中学校)



	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
■国語A	-1.1	-1.4	-1.1	-0.4	-0.7	-3.5	-3.6	2.8	1.1	2.6	1.9
□国語B	-6	-3.1	0.4	0.8	0	-5.1	-4	-0.3	2.5	1.1	-0.2
▲数学A	-8.3	-3.7	-3	-1.2	-5.2	-8	-6.2	-0.7	-1.8	5.4	2.9
▲数学B	-8.2	-1.8	-1.7	-0.6	-2.6	-8.8	-8	-2.8	-3.1	1.2	-1.9
○理科					-4.1			-2.2			-1.1

【中学校】国語、数学ともにA問題では全国を上回っていて、基礎的な力がついてきていることがわかります。しかし、3教科とも、解答の条件が満たされていないなど、問題の読み取りに弱さが見られました。小学校と同じく、無解答率が非常に低く、最後まで問題に取り組む姿勢が見られました。

子どもたちの家庭学習の状況

家庭学習について、小学生は、1時間以上の割合が7割を超え、県平均を上回っています。中学生は、2時間以上の割合が2割となり、県平均の3割を下回る結果になっています。町内の中学生は部活動に所属している割合が高く、現段階(10月)では家庭学習時間も増えていると考えられます。

